

参考資料

1 経常収支比率の推移

(単位:千円)

	H20	H21	H22
経常収支比率 = $\frac{\text{経常経費充当一般財源}}{\text{経常一般財源}}$	22,380,703	21,006,605	21,453,354
	25,854,433	26,022,298	27,289,274
	86.6%	80.7%	78.6%

◆ 経常収支比率とは

市税や普通交付税などの毎年度継続して入ってくる使いみちの自由な収入(=経常一般財源)が、どれくらいの割合で人件費、扶助費、公債費などの毎年度継続して固定的に支出される経費(=経常経費充当一般財源)にあてられているかをみるもので、算定方法は、経常的な支出にあてられた一般財源の額を分子として、経常一般財源の額を分母として計算する。

2 将来負担比率の推移

(単位:千円)

	H20	H21	H22
将来負担比率 = $\frac{\text{将来負担額} - \text{充当可能財源等}}{\text{標準財政規模} - \text{算入公債費等の額}}$	30,551,580	29,235,796	21,362,315
	23,019,203	22,420,656	22,699,592
	132.7%	130.3%	94.1%

◆ 将来負担比率とは

将来負担すべき実質的な負債の、標準財政規模を基本とした額に対する率。地方債残高のうち普通会計が負担することになるもののみならず、地方公社や損失補償をした第三セクターの負債も含め、決算年度末時点での地方公共団体にとっての将来負担の程度を把握する指標。